

スポーツ系専門学校生における人生観・価値観について(Ⅱ)

～とくに、'96年度および'97年度学生の比較を中心に～

○廣田 治久(余暇問題研究所) 下田 由香(スポーツ・エデュケーション・アカデミー)

キーワード： 人生観 価値観 スポーツ系専門学校生

I 緒言

現代社会の中で次世代を支える担い手として、若者に対する期待は大きい。また、期待の大きさに比例して、情報化社会など目まぐるしい変化を遂げる社会の中で、若者がいったい何を考え、どのような考え方もつのか、人生観・価値観への関心も高くなっているように感じられる。同様にレジャー・レクリエーションにおいても、若者の活躍が期待されている。しかし、その特徴を得ようとするとき、これまで全国的規模の調査などによる一般的な特徴から推定されてきた。そこで、昨年スポーツ系専門学校生に焦点を当て研究を行い、その結果いくつかの特徴が得られた。

しかし、先に述べた現代社会の状況下、個人の持つ人生観や価値観もそのときどきに応じて影響を受け、少なからず変化していることも考えられる。また、スポーツ系専門学校のレジャー・レクリエーション教育を考えたとき、より細やかな特徴を捉えることが必要と考えられる。

そこで本研究では、スポーツ系専門学校生を対象に、'96年度学生と'97年度学生とを比較しながら、若者・青少年の特徴を得ることは大きな意義があるものとする。

II 本研究の目的

本研究では、スポーツ系専門学校に通う学生を対象に、

①意欲 ②熱心 ③自信 ④生き方 ⑤生き甲斐 の5項目について

- 1) '96年度学生との比較検討
- 2) 性別間の比較検討

を行い、スポーツ系専門学校生の人生観、価値観の特徴、実状を明らかにすることを目的とする。

III 研究方法

1. 調査対象： スポーツ系S専門学校生 174名(男子：108名 女子：66名)
2. 調査期日： 1997年4月9日
3. 調査方法： 質問紙による集合調査
4. 質問項目： 5項目30問

Q1	意欲	「これだけは若いうちにやっておきたいこと」	1問	複数回答
Q2	熱心	「学校生活での熱心事」	1問	複数回答
Q3	自信	「自信のある領域」	1問	複数回答
Q4	生き方	「生き方や考え方」	18問	単数回答
Q5	生き甲斐	「生き甲斐を感じる時」	9問	単数回答

IV 結果

調査結果に対し、単純集計、および、96年度と97年度、男子学生と女子学生の間で有意差検定を行った結果をまとめる。

① 意欲 -これだけは若いうちにやっておきたいこと-

17の回答項目の中で、支持する割合の高い項目は、「将来役に立つ技術や資格を身につけたい」(81.6%)「いろいろな人とつきあって人間関係を豊かにしたい」(73.3%)、「趣味や楽しいことを思う存分やっておきたい」(74.7%)、「一生つきあえる友人を得たい」(69.5%)があげられる。

96年度の結果と比べると、上位4項目に変わりはない。表1の有意差の検定では「人間関係を豊かに」「社会を良くする」に有意な差が認められる。男女間に有意差の認められたものは、「何があってもへこたれない」で女性の支持する割合が高い。

<表1>

質問項目	96	97	有意差
いろいろな人とつきあって人間関係を豊かにしたい	68.5	79.3	*
社会を良くするための努力をしたい	13.5	5.2	**
質問項目	M	F	有意差
何があってもへこたれない根性を身につけたい	40.7	60.6	*

*:5% **:1%

② 熱心 -学校での熱心事-

97年度は「友人や先輩とのつきあい」(79.9%)、「日ごろの授業や講義」(63.2%)が高く支持されている。逆に、「読書などの教養づくり」(4.0%)は低い。

表2から年度間で差の認められる項目は、「友人や先輩」「授業や講義」「行事や旅行」「先生との交流」「クラブ・サークル」であり、すべてにおいて97年度の方が高くなっている。男女間では、「友人や先輩」では女性、「就職のための勉強」では男性がそれぞれ高く支持している。

<表2>

質問項目	96	97	有意差
友人や先輩とのつきあい	61.5	79.9	**
日ごろの授業や講義	46.0	63.2	**
行事や旅行などの思い出づくり	28.0	47.7	**
先生との交流	17.0	31.6	**
クラブ・サークル	14.5	23.6	*
質問項目	M	F	有意差
友人や先輩とのつきあい	73.1	89.4	*
就職のための勉強	52.8	33.3	*

*:5% **:1%

③ 自信 -自信のある領域-

「その気になれば、なんでも人並みのことはできる」(58.6%)、「健康や体力に恵まれている」(54.0%)、「家族や身近なことで、とくに悩みはない」(50.0%)が上位を占めている。しかし、支持の割合は同じ回答方式である「意欲」「熱心」と比べると低い。

表3から年度間で差の認められる項目は「健康や体力に」で97年度が高い。男女間では「人に頼りにされる方である」で女性が高い。

<表3>

質問項目	96	97	有意差
健康や体力に恵まれている	37.5	54.0	**
質問項目	M	F	有意差
人に頼りにされる方である	17.6	39.4	**

*: 5% **: 1%

④ 生き方 —生き方や考え方—

ここでは18の質問に対して、Yes、Noの回答を求めた。質問項目に対して肯定する支持の割合が高いのは、「困っている人がいたら助けてあげべきだ」(97.1%)、「一生に何回かはデカイことに挑戦してみたい」(93.7%)が90%以上であった。「結果の正否は考えずに、やってみることが大切である」(89.1%)、「主張すべきことは主張すべきだ」(87.9%)、「努力すれば、それに見合うみかえりが必ず得られる」(80.5%)が80%以上、「大きな組織の中で、自分の力を発揮したい」(77.6%)、「多少のことなら悪いことをしてもとやかく言わない」(75.9%)、「悪いことはやるべきではない」(72.0%)が70%以上の高い割合で支持されている。逆に否定する割合の高かった項目は、「うまくいく見通しが無いのに、がんばるのはムダだ」(74.7%)であった。

また、「人間は人生目標がないと生きていけない」(Y:51.7% N:47.1%)、「一生懸命がんばっても、むくわれないことが多い」(Y:48.3% N:50.0%)、「自分のことは人に頼らず、自分で解決すべきだ」(Y:53.5% N:44.8%)の3つの項目では、支持が二つに分かれている。

表4から、96年度と差の認められるものは、「一生に何回かは」「大きな組織の中で」「主張すべきことは」で肯定的な支持が96年度よりも高い。否定では、「主張すべきことは」「努力すれば」「大きな組織の中で」「人間は人生目標が」で低くなっている。男女間では、「妥協してもめ事は」「自分の店や事務所を」で両者に差が認められる。

<表4>

質問項目	回答	96	97	有意差
一生に何回かはデカイことに挑戦したい	Y	82.0	93.7	**
主張すべきことは主張すべきだ	Y	79.5	87.9	*
	N	12.1	20.5	*
努力すれば、それに見合う見返りが必ず得られる	N	28.0	18.4	*
大きな組織の中で、自分の力を発揮したい	Y	65.5	77.6	*
	N	34.5	22.4	*
人間は人生目標がないと生きていけない	N	58.0	47.1	*
質問項目	回答	M	F	有意差
妥協してもめ事は起こさない方がいい	Y	76.9	45.5	**
	N	21.3	54.5	**
自分の店や事務所をもつような仕事がしたい	N	33.3	48.5	*

*: 5% **: 1%

⑤ 生き甲斐 —生き甲斐を感じる時—

5段階評価の回答を点数化し、その平均を求めた。その結果、生き甲斐をより強く感じている項目は、「スポーツや趣味に打ち込んでいるとき」(4.61)、「友人や仲間とつきあっているとき」(4.43)、「親しい異性といるとき」(4.17)であった。

年度比較では、上位3項目に変わりはないが、「親しい異性と」が97年度ではより高くなっている。男女間では、大きな差のある項目は認められなかった。

V 考察

(1) 97年度の特徴、96年度との比較：

- 1) 技術や資格、趣味や楽しいことに対して意欲は高く、より友人関係を大事にしようとすることに對し意欲が高い。
- 2) 専門性、人との交流とそこでの思い出づくりに熱心さが高い。しかし、専門的知識に偏ってしまい、一般的な教養に対する熱心さが低い傾向が伺える。
- 3) 自己の能力・問題に対するの自信が高く、健康・体力に対してより高くなっている。逆に、社会的な判断、他人からの信頼、高校時代の成績については低い。また、全体的に自信についての項目を支持する割合は、「意欲」「熱心」に比べて低い。
- 4) 全体的には「生き方・考え方」の特徴は96年度とほぼ変わらないものの、特に大きなことに挑戦したい考え方が高くなっている。また、人生目標の必要性、社会的評価、自助努力に対して96年と同様、考え方が二つに分かれている。
- 5) 生き甲斐は96年度と同じく、人との交流、スポーツや趣味に高い値を示している。

(2) 性別間の比較：

- 1) 「根性を身につけたい」のような、これまで男性的に捉えられてきたことに対して、女性の意欲が高い。
- 2) 「友人や先輩とのつきあい」に対して、女性がより熱心である。
- 3) 「自信」の中では、支持の低い方である「人に頼りにされる方である」の中で、女性の支持する割合が高い。
- 4) 「生き方・考え方」では、「妥協してもめ事は起こさない方がよい」に対し、男性は起こさない方がよい、女性はそうではないとする割合が高い。

VI まとめ

今回スポーツ系専門学校生の人生観・価値観として上記のような特徴を見出したが、なかでも、一般の若者の特徴として、個性の尊重、個人主義が言われている状況下、人との交流・関係に価値を高くおく特徴があることは、レジャー・レクリエーションの立場からみても非常に好ましいことである。しかしながら、対人関係に対する自信の低いことや、社会貢献に消極的であることについては懸念される特徴とも言える。

また、大きなことに挑戦したいなど積極的な行動性が高いが、悪いと思うこと、人生目標の必要性、社会的評価、自助努力に対して、96年度に続き意見の分かれるなど曖昧な一面を除かせている。

以上のようなことから、スポーツ系専門学校生に対する教育プログラムは、微妙に変化する特徴や実状を捉えながら考える必要性のあることが、本研究において示唆された。